

マーケットの動き（2019年12月9日～12月13日）

先週の国内債券市場は、前週末比でほぼ横ばいの推移となりました。

米国・欧州の中央銀行政策会合、英国総選挙、米中通商協議の期限などを背景に、神経質な相場展開となりました。

クレジット市場については、引き続き需給環境は堅調であり、金利差も安定的に推移しました。

投資環境見通し（2019年12月）

国内長期金利はマイナス圏を中心としたレンジ内で推移

- 国内長期金利は落ち着いた動きを予想しています。世界景気の減速に備えた各国中央銀行の金融緩和の動きが一巡しており、日銀も当面は現在の金融政策を維持するとみています。
- 米中貿易協議の大幅な進展が見込めない状況下で、当面の長期金利はマイナス圏を中心としたレンジ内で推移するとみています。

	12月13日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	-0.02	0.00	0.04	0.09	▲0.08
NOMURA-BPI （騰落率）	389.78	0.04%	0.05%	▲0.49%	2.04%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

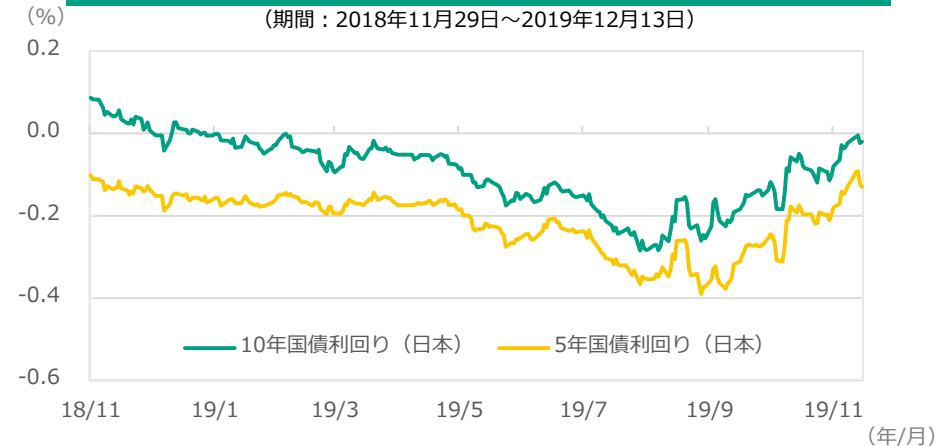
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/201912_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2018年11月29日～2019年12月13日）



野村BPI指数の推移

（期間：2018年11月29日～2019年12月13日）



※2018年11月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成